

山梨放送

活動名	YBSメディアリテラシー教室
実施期間	令和7年6月～11月
実施回数	学校訪問2回・社内見学1回

【実施学校】 昭和町立常永小学校、甲府市立貢川小学校、甲府市立新紺屋小学校

【事業実施の成果・課題】

- ・いずれの回も共通DVDを熱心に視聴してくれており、特に熱血太郎くんの失敗談では笑いながら視聴するなど、楽しみながら学んでくれた。
- ・テレビ、ラジオのレギュラー番組を複数持つ櫻井和明アナは小学生にも認知度が高く、参加児童は楽しみながらも真剣に聞いてくれた。共通DVDにアクセントやイントネーションについての言及があり、櫻井アナの話との相乗効果でアナウンサーの仕事の大変さについて理解が深まった。
- ・スタジオ見学を実施した学校は、事前にYBSの自社番組を見てきてほしいとお願いしたため、各スタジオを興味深く見学している様子が見られ、質問も多く寄せられた。
- ・5年生に短い時間で分かりやすくメディアリテラシーの意味が伝わるか不安だったが、感想を見ると理解してくれていることが伺えた。
- ・3クラス61名と引率教諭をクラスごとに20数名ずつ、3か所のスタジオをスムーズに見学するためのスケジュール調整、スタッフ手配に難儀した。次年度以降の参考にしたい。

【事業担当者・講師の感想】

<櫻井和明アナウンス部長>

メディアの役割について理解を深めてもらったことはもちろんだが、アナウンサーの仕事に興味を持ってもらえたことは大きい。今後も続けていきたい。

<荻野弘樹メディアプロデュース局長>

デジタルネイティブの現在の小学生世代が、正確性や公共性が担保された放送番組がどのようにつくられているかを知ることとはとても大切なことと感じた。今回参加した小学校高学年はテレビの接触率が高い世代で、中高生になってもこのまま地上波に興味を持ち続けてほしいと思うが、実際にはティーンの数値は下落傾向にある。メディアリテラシーという意味では小学5年生はもちろんだが、スマホの接触率が増える少し上のティーン世代へのアプローチも必要なのではないかと感じた。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜貢川小学校 中山享子教諭＞

まずは文部科学省が後援する民間放送教育協会「小学校メディアリテラシー授業支援事業」の一環として受け入れていただき感謝いたします。今回の校外学習では次の点を目的としていました。①山梨放送本社の見学を通してニュース番組を制作する放送局について理解を深める。②マスメディアが発信する情報と自分たちの生活とは深く関わっており、放送局の人々はその影響の大きさや責任を感じながら、伝える情報を選んでいることを理解する。

最初に見た映像では報道に必要な速報性、正確性、公平性、公共性について児童は考えることができました。また3か所のスタジオ見学では制作する人々の工夫や苦勞について学習することができました。アナウンサーの方とお話しをする場面では児童の顔が嬉しそうに輝いていました。実際に、多くの人が働く場所を児童が訪れたことで情報発信の大切さについて実感することもできました。

これからの社会科での「情報を伝える人々とわたしたち」の学習に生かしていくことができる見学となりました。ありがとうございました。

＜子どもたちの感想＞

- ・速報性、正確性、公平性などのルールがあるので記者や編集者は大変だと分かりました。分かりやすいようにイントネーションにも気をつけて話さなければいけないこともはじめて知り、勉強になりました。
- ・いつも見ているニュースがとても手間をかけて作っていることが分かり、いままでと違った見方ができそうです。SNSなどの情報だと正確ではないことがあるので、ニュースの正確性はとても大切なことだと思いました。
- ・正確性や公平性をしっかり考えてニュースをつくるのは大変な仕事だと思いました。かじょうな演出のきけん性を理解しました。
- ・熱血太郎が失敗するところがとてもおもしろかったです。ニュースをつくる時の大切なことが楽しみながら勉強できてうれしかったです。
- ・テレビが大好きで、見学できてとても嬉しかったです。印象に残ったのは熱血太郎奮闘記です。ニュースをつくる時の大事なことが楽しく頭に入ってきました。テレビがもっと好きになれたし、今回いろいろ教えてくれた人たちに感謝しています。
- ・ニュースや番組を作っている人たちは与えられた役割を協力して一つの番組を作っていました。毎日なんとなくテレビを見ていましたが作っている人たちの努力や情熱を感じてこれからは見ようと思います。
- ・一つのスタジオでいくつも番組を作っていること。サブで山梨のいろいろな場所の今がどうなっているか見れること、グリーンバックがなぜみどりなのかということ、初めて知ってびっくりしました。
- ・一つの番組にたくさんの人が携わり、たくさんの時間と労力をかけていることを知り、ぼくもこの仕事に興味をもちました。

＜視聴者の感想＞

- ・自分の子が通う小学校でもこのような授業をやってもらうことは可能なのか。
- ・ネットにはフェイクニュースが溢れる中、テレビ局がこのような授業を企画することは意義深い。多

くの児童に体験してもらいたい。